

第3回千代田区ヒートアイランド対策計画見直し検討部会 議事要旨

【開催概要】

1 開催日時

令和4年10月27日（木）10時～12時

2 開催場所

区役所8階 第3・4区議会委員会室

3 開催方法

会場・WEB併用会議

4 出席委員（7名）

会場 日本工業大学建築学部教授 三坂委員（部会長）
法政大学文学部准教授 山口委員
芝浦工業大学建築学部教授 村上委員
環境省水・大気環境局大気環境課大気生活環境室長 水原委員
東京都環境局気候変動対策部環境都市づくり課長 古舘委員
千代田区環境まちづくり部長 印出井委員

WEB 日本大学理工学部助教 三友委員

5 欠席委員（1名）

千葉大学大学院教授 村木委員

6 出席オブザーバー（7名）

会場 篠原 中央区環境土木部環境課ゼロカーボン推進係長
（武藤中央区環境土木部環境課長の代理出席）
渡邊 文京区資源環境部環境政策課長
山崎 地域保健課長
谷田部 道路公園課長
前田 景観・都市計画課長
神原 地域まちづくり課長
千賀 災害対策・危機管理課長

7 欠席オブザーバー（3名）

瀧澤 港区環境リサイクル支援部地球温暖化対策担当課長
小野川 新宿区環境清掃部環境対策課長
杉光 台東区環境清掃部環境課長

8 事務局及び関係者（14名）

笹木環境政策課長、松下企画調査係長、山浦事業推進担当係長、落合エネルギー対策係長、エネルギー対策係員4名、国際航業株式会社4名、エムエスシーソフトウェア株式会社1

名、株式会社三菱総合研究所 1 名

【次 第】

1 開 会

2 議 題

(1) 「千代田区ヒートアイランド対策計画」の見直しについて

- ・第2回検討部会における意見等への対応について（案）
- ・千代田区ヒートアイランド対策計画の見直しへ向けた現状調査、検証内容について
- ・千代田区ヒートアイランド対策計画の見直しへ向けた現状調査、検証結果について（案）

(2) その他

3 閉 会

【配布資料】

① 次第

② 委員名簿

③ 千代田区ヒートアイランド対策計画検討部会の今後のスケジュール（案）

④（資料1）第2回検討部会における意見等への対応について（案）

⑤（資料2）千代田区ヒートアイランド対策計画の見直しへ向けた
現状調査、検証内容について

⑥（資料3）千代田区ヒートアイランド対策計画の見直しへ向けた
現状調査、検証結果について（案）

⑦（参考資料1）熱分布調査結果（R4、H22、H15）

⑧（参考資料2）現状調査、検証結果の詳細

⑨（参考資料3）第2回千代田区ヒートアイランド対策計画見直し検討部会議事要旨

【議事要旨】

1 開 会

2 議 題

(1) 「千代田区ヒートアイランド対策計画」の見直しについて

◇議題の論点及び今後のスケジュールについて事務局より説明

- ・本日の検討部会では、令和4年度の夏季に実施した現状調査の内容及び検証結果を説明します。
- ・今後のスケジュールとしては、今年度1月に第4回検討部会を、3月に第5回検討部会を予定しており、対策計画見直しの方向性を決定し、令和5年度には、パブリックコメントや議会の意見も踏まえながら、計画改定案の検討を行っていく予定です。

◇資料1～2に基づき事務局より説明

◆山口委員

- ・資料2「6. (3)人への影響」の調査にあたり、1ルートに対して何名の調査員で実施したのでしょうか。また、全4ルートをどのようなスケジュールで行ったのでしょうか。

◇事務局

- ・調査員数は、1ルート10名としました。また、1日2ルート、午前と午後で1ルートずつ調査を実施しました。

◇資料3「1. 千代田区ヒートアイランド対策計画に関する取り組みの検証」～「3. 国及び東京都、他自治体の動向調査」に基づき事務局より説明

◆印出井委員

- ・資料3「2.」の熱中症救急搬送人員数については、東京都のスケールで分析をしています。これを都内各区分に昼間人口に対する熱中症救急搬送人員数の割合で見ると、千代田区は最も少なくなっているとの報道があります。これは、駅が近い・冷房がある施設が身近にあるなどの要因が推測されますが、そういった観点からの分析も考えられますが、事前に事務局として、そこまで深堀ができませんでしたので、この場で述べさせていただきます。

◆村上委員

- ・資料3「2.」の熱中症救急搬送人員数に関し、屋外・室内といった救急搬送発生箇所区分した整理ができるのであれば、実施してほしいと思います。また、電力使用実績については、熱帯夜の影響をみるため、夜間のエアコン使用などによる電力使用量に関する整理も付け加えていただければと思いました。

◇事務局

- ・屋外・室内別の整理、夜間の電力使用量の整理について検討いたします。

◆山口委員

- ・熱中症救急搬送人員数に関しては、東京消防庁などで、かなり詳細なデータを整理しています。区からの依頼であれば、提供していただけるのではないかと思います。
- ・資料3 p1-3 の表 1-1 の評価結果については、どのような評価検討を行った結果であるのかを、もう少し詳しく教えていただきたいと思います。

◇事務局

- ・2018年に策定したヒートアイランド対策計画における対策項目に関し、検証結果により対策の成果が認められると考えられるものを「◎」、直接の成果がわからないが区の他の計画などへの効果があると考えられるものを「○」として評価しています。

◆山口委員

- ・今回調査した結果、効果があるのが確認できて二重丸というものと、そうではないものが混じってしまっているということですね。折角これだけ検証したのですから、その検証結果を根拠にして評価を示した方が重みがあると思います。一方で、なかなか数字にできず評価しづらい項目も、行政施策に関してはあるかと思います。数字で得られなかったとしてもそれは良いと思います。そのような項目については、科学的な評価はできないけれども、こういった効果があるので、これは今後も実施していきますという評価で良いと思います。

◆三坂部会長

- ・折角この報告書がありますので、表中の実績欄のところに、ヒートアイランド対策の検証としてはこの報告書のどこをみればその効果がわかるのか、「◎」とした根拠となる参照先のページ数などを明記いただければと思います。

◇事務局

- ・評価の根拠を示すよう修正致します。

◆古舘委員

- ・東京都では、今年9月に環境基本計画を改定しました。そちらも参考としてご活用いただければと思います。また、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例の改正を進めています。審議会や技術検討会などを通じて検討を行っており、資料なども公表させていただいております。その中に、大規模新築建物に関する建築物環境計画書制度がございます。取り組みの強化として、気候変動への適応などの項目も盛り込む予定としておりますので、そちらも参考としていただければ、大変有難いと思っております。条例改定自体は、12月を予定しております。12月の第4回定例都議会で提案することになっております。引き続き情報提供をさせていただきますので、宜しくお願い致します。

◇事務局

- ・情報をありがとうございました。今後も、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例の改正の情報をご提供いただけますよう、宜しくお願いします。

◆三友委員

- ・前回の 2006 年のヒートアイランド対策計画策定時と比較して、区民のヒートアイランドに対する意識の高まりや情報入手のしやすさが大きく変わっていると思います。そのような中、今回のデータが、区民の皆さんの暮らしや身の回りの環境にどのように関係し、役立つのか、わかりやすく発信することが重要です。さらに申し上げると、ヒートアイランドに関心のない方に対して、何か訴えかけるようなものであった方が良いと思います。区民の皆さんが自分事として捉えることが出来るよう、この調査の結果を踏まえてこのようなことを実行するとヒートアイランド対策に役立つといったことが明確にわかるように伝える必要があると思っております。

◇事務局

- ・前回の検討部会の検証と今年の夏を主体とした調査の実施を踏まえて、対策を具体的に計画し、かつ、区民の方にわかり易く、「これなら私もできる」と思っていただけのような、そういったことも今後練っていきたいと思いますので、引き続きご協力をよろしくお願い致します。

◆三坂部会長

- ・資料 3 p2-2 において、熱中症による救急搬送人員の増加と相関のある気温 30 度以上という基準で日数の経年変化を調べてあるのですが、先ほどありましたように熱帯夜の話などもありますので、例えば猛暑日と真夏日と熱帯夜の日数が、どのような変化をしているのかという数字があると、少し変化の状況がわかっていいかなと思います。参考までに出していただけるとありがたいと思いました。

◇事務局

- ・対応いたします。

◇資料 3 「4. 熱分布調査（航空機観測）」～「7. 夜間のヒートアイランド現象の課題把握」に基づき事務局より説明

◆山口委員

- ・資料 3 「6.」、「7.」の項目でサーモ画像を使って検証して下さっていますが、これですと撮影日時がわかりません。できれば、いつ撮影したものかという情報があれば、後日、アメダスのデータ、天気図等と見比べながら見返すことができるかと思えますので、撮影日時については全てわかるような形で記載した方が良いと思いました。本編に入れるのが難しければ、参考資料につけておくなども検討してほしいと思います。

- ・他にも、p6-13以降の「人への影響」のところも、調査を行った時間などの情報があると分かりやすいと思います。午前中・午後などを明らかにすることによって、日向・日影などを推定する情報となります。
- ・また、p6-20に記載された「暑さ指数(WBGT)と暑さの感じ方評価の関係」図では、相関がとれていないことが確認できます。これは暑さ指数だけでは指標に限界があって、暑さ指数だけでは表現できないが、何らかの対策をすることによって効果があるということが分かったという点で非常に大切です。そこで、この場所はこういった対策をしているので、このような結果となっているということが分かるような説明を付けていただくと分かりやすいかと思います。
- ・最後に、資料3「4.」の航空機による熱分布調査の結果をみて、平成15年度と比較した令和4年度の今回撮影結果で、非常に効果ははっきり出ていると思いました。平成15年度は、私がヒートアイランド担当として環境局で働き始めた時でした。様々な対策を、千代田区さんとやってきたので、それらの対策が全て実った形であると思います。特に再開発や東京都自然保護条例第14条に基づく緑化ですとか、環境配慮など様々な対策が全てきちんと形として評価できているので、素晴らしい結果だと思いました。以上でございます。

◇事務局

- ・サーモ画像の撮影日時、人への影響調査の実施日時や感じ方評価への説明追記などについて、対応いたします。

◆村上委員

- ・p4-13ページで、ランクをつなぐ曲線のピークが全体的に左にずれているということが示されており、マップ全体についての状況はよくわかりました。一方、p4-6で遮熱性舗装などについてミクロ的な熱分布図を記載されていますが、例えば、これらの対策を行った場所と、行っていない場所に切り分けて、過去と現在について同様のランクの曲線の評価を行うことで、千代田区で行ってきた対策の効果が、より明確にみられるのではないかと思います。
- ・2つ目は、p6-13以降の「人への評価」は非常に面白い調査分析だと思ったのですが、この調査は保水性舗装・遮熱性舗装沿いのルートを選定しているのでしょうか。調査結果には、保水性舗装・遮熱性舗装の効果より、緑陰の効果や風通しの良さ、ミストの有無などの要因が目立っていたため、調査に遮熱性舗装・保水性舗装の効果のみようとする意図があったのかを確認したいと思いました。
- ・最後に3点目として、緑陰に関してはp5-25などで、その効果を示す顕著な結果が出ています。この結果については、区民の方にも分かりやすく「緑陰があるところってこんなに効果があるんだな」ということが実感しやすい作図ができると、より一層こ

の調査結果を区民の方に出しやすくなると思いました。

◆三坂部会長

- ・今の村上委員のご指摘は、例えば p4-6 に示された範囲の中で画素数を比較したらどのようなことが分かるかというご指摘だと思います。そういったものがあると、いいと思います。

◇事務局

- ・一点目のご指摘の比較による検証を、検討したいと思います。
- ・二点目の調査ルートにつきましては、遮熱性舗装・保水性舗装の対策を実施した個所と未実施の個所を組み合わせるルートを選定しています。対策の実施・未実施の違いも見るためにこのようなルート選定を行いましたが、結果的には風や視覚的に訴えかける要素の影響が強く、遮熱性舗装・保水性舗装の効果を体感し難かったと感じております。

◆村上委員

- ・舗装の対策は、道路表面温度を下げる効果があるのですが、周辺に対しての効果まではなかなか難しいといえますか、そういった結果であればその結果が非常に有効だと思います。

◇事務局

- ・三点目のご指摘については、区民の方に伝わるような工夫をしていきたいと思っております。

◆印出井委員

- ・そのあたりはぜひ、先生方にご意見をいただきたいと思っております。我々千代田区としても、今回は、きめ細かい調査をしたと思っております。ですので、このデータを、例えばオープンデータとして研究者の方とか民間の方々が使っていただく上で、どのように公開したらいいのだろうか、といったご意見をいただきつつ、一方で先ほどご指摘があったように、いわゆるインフォグラフィック的に区民、市民の方がわかりやすい形で公表していくという、両方の視点が必要かなと思っております。そのあたりはまた別途、公開に向けて、まさに研究者・有識者の皆様から、ご助言いただければと思います。

◆水原委員

- ・地表面の温度の調査結果では、対策の前と後の違いが見えて、このような政策によっ

で効果があったということが非常にわかり易く伝えられる例だと思います。一方で「人への影響」に関して、このようなビフォー、アフターという提示はできないのでしょうか。このように歩いて実施した調査をされたのは、今回が初めてということでしょうか。

◇事務局

- ・今回が、初めての調査となります。

◆水原委員

- ・サーモグラフィによって政策の効果があつたと証明できたのと同様に、区民の方々が、感じ方として効果が出ていたということが言えれば良いなと思い、そういった意味で「人への影響」調査に関してビフォー、アフターがあればいいと思いました。今回が初めてであれば、過去に何かヒートアイランド関係のアンケートなどをとってれば、そういったものを活用する方法もあるのではないかと思います。

◇事務局

- ・過去のアンケートなどが存在するの否かを確認し、比較できるものがあれば検討していきたいと思います。

◆古館委員

- ・例えば、面分布的な温度観測に加えて、垂直方向の温度変化観測を行うことも必要かと思いました。特に暑い路面で、高さ 60cm の場所と高さ 120cm の場所と 160cm の場所で温度は変わると思います。ベビーカーの高さとか、子供の背の高さとか、あと大人の背の高さ、そこで温度がどのように変わるのかということを経験提供できれば、区民の方に寄り添った内容になるのではないかと思います。もし可能なのであれば、そういう調査も検討されるとよろしいのかなと思いました。

◇事務局

- ・今回の気温観測は、原則 2.3m、一部 2.5m の高さの街路灯に設置しており、垂直方向の違いは測定していませんが、後ほど説明するシミュレーション結果から、そういった説明をさせていただける部分もあるかと思いますので、よろしくお願いいたします。

◆三坂部会長

- ・私からも結構あるのですが、まず、非常に参考になる貴重なデータが取れたという印象なのですが、そのデータについて、まず p 5-4 気象庁の測定データとそのすぐ直

近で測定している北の丸公園での測定結果を比べて、今回の測定方法が精度高いものだという事を、証明する必要があると思います。その比較図は、資料に載せていただきたいと思いました。

- ・ p5-5 からの暑さ指数については、ランク別の累計時間数などを算出して、危険な時間帯が長い地点などを明確にすると分かりやすいと思います。そのような解析を加えていただければありがたいと思いました。
- ・ p6-7 以降の、ヒートアイランド対策を実施した箇所の地表面温度の画像が 3 枚並べてありますが、できれば平成 15 年とか 22 年とか対策の前後でどのような土地利用の変化があったのかを読み取ることでできる対策前と対策後の写真があるとイメージができていいと思いました。また、同じ図で、対策をした所にだけ、表面温度が数字で書いてあるのですが、これも対策をしてない所も記載し、対策したことで差がどのように変化したのかが分かりやすく表示されてほうが良いかと思いました。
- ・ p6-20 の「人への影響」に示された気温・WBGT の値は、どこか 1 ヶ所の測定点のデータとなっているのでしょうか。

◇事務局

- ・ ご指摘につきましては、資料に反映させていきたいと思います。
- ・ 「人への影響」調査の気温・WBGT 値に関しましては、調査に簡易 WBGT 計を携帯し、その都度、移動先の地点での値を計測しております。報告書の検証には、この値を使用しており、調査員の評価した時点・場所での状況に対応したものとなっております。

◇資料 3 「8. 再開発エリアに関する検証」～「11. 3D 都市モデル(PLATEAU)による検証」に基づき事務局より説明

◆三友委員

- ・ 資料 3 「9. 樹木の成長に伴う緑陰効果の検証」に関して、調査地点に隣接するビルの影響はないのでしょうか。また、影のつき方は方位に影響を受けますと思いますが、本調査では、方位に関してどのようにお考えなのかをお聞かせいただけますでしょうか。

◇事務局

- ・ p9-5 に示しましたが、調査地点は霞ヶ関の建物の間の通りと、丸の内仲通りの建物の間の通りとなります。写真をみても、歩道は広く、ビルの影響は小さいものと考えております。
- ・ 位置関係につきましては、資料 2 の p 16 図 5-6 をご覧ください。この図の T33 と T35 が該当する地点ですが、どちらも東西方向に近い向きとなる道路に位置しております。方向により太陽の当たり方が異なると、比較対象として好ましくないと考え、同様の

方向に向く道路上の調査地点を選定しました。

◆山口委員

- ・先ほどご意見がありました対策エリアのランク別の画素数の比較についてですが、p8-1 以降の図のエリア内でランクの比較をおこない、対策後に何パーセント変わったかなどの整理を行うと、変化が分かりやすいのではないかと思います。例えば再開発エリアとエリア外に関するランク別画素数を比較すると、対策を実施した効果が見えるのではないかと思います。具体的に再開発の内容を把握していないと、画像の比較だけでは効果がイメージしにくいですが、このような比較であれば分かりやすいと思います。

◇事務局

- ・p8-1 の再開発の前後については、ご意見を踏まえて分かりやすくしたいと思います。

◆村上委員

- ・私も再開発の効果検証部分を興味深くみていたのですが、先ほどもありましたように、どこが再開発されたのかわかりにくいので、地図や航空写真があるとよりわかりやすいと思いました。また、細かいのですが、例えば p8-2 や p8-3 の図で、再開発されていない建物の周辺が、一番右の写真に示されていますが、全体的に赤系から黄色系の方になっています。全体が再開発地区ではないと思いますが、再開発されていないところも、この一番右の令和 4 年度の写真が、全体的に赤系から黄色系の方になっていると思います。それと、再開発されているところも建物の場合、建物がどこにあるかわからないので何とも申し上げにくいのですが、おそらく建物の屋上の温度ではないかと思いますが、屋上面も含めて周辺温度が低いと感じ、令和 4 年度が全体的に低いのではないかという印象を受けました。非常にわかりやすい調査結果なのですが、そういった印象を令和 4 年度の画像に関しては持ちました。
- ・p9-1 にある散布図にもありましたように緑陰の部分で、全体的に棒線よりも赤の点線が下にあります。そのなかでも、特に注目したのは、気温が高い時により一層この緑陰の効果が出ていることでした。その辺もコメントとして付け加えられると、暑い中でやはり緑陰があると非常にいいということが、より一層わかりやすいのではないかと思います。その際に、単に緑陰だけではなくて、特に大手町ですとか丸ノ内のあたりというのは、建物の日影の影響もあるような気がしました。P9-5 では、T-33、T-35 で緑陰の多い、少ない場所となっているのですが、実際これらの場所でどの程度のサンプルがある状態でしたでしょうか。何分位測った結果なのかなと思いました。

◇事務局

- ・最初の p8-3 あたり令和 4 年度の再開発の周りもかなり温度が下がっているような感じだということで、やはり再開発後は風環境も緑化も元より増えますので、そういったところから周りにも影響が出ているのかなと考えております。再開発に関するこの辺の議論については、どこでどういう工事をやったということを含めまして、もう少し工夫します。
- ・それと 2 番目として、緑陰効果のコメントが、気温が高くなれば高いほど緑陰の効果が出ているのではないかというコメントを入れたほうがいいとのことでしたので、それに関してはご指摘のとおりだと思います。また、緑陰効果の中の p9-5 の T-33、T-35 地点につきまして、建物の日影の影響もあるのではないかと考えております。測定は、T-33、T-35 も含めまして、街路灯に 3 ヶ月間気温計を設置しまして実施した結果ということであります。

◆村上委員

- ・サンプル数としては、何点になりますか。

◇事務局

- ・各街路に 1 地点ずつとなります。

◆村上委員

- ・観測を行った地点がどのような状態の場所であるのかということは、確認しておいた方が宜しいかと思えます。

◆三坂部会長

- ・今の件で、測定点は東西通りの南側か北側かっているのは同じ条件なのでしょう。

◇事務局

- ・T-33 は南側で設置、T-35 に関しては北側設置となっておりますので、その条件は違うかと思えます。

◆印出井委員

- ・それですとビルの影が南と北では、同じ東西通りであれば影響するかなと思うので、その辺ももう一度確認して検証していきたいと思えます。

◆山口委員

- ・今の件に関連して、例えば p9-2 の図 9-2 と図 9-3 について、もうすこし広い範囲の

地図を出していただいて、その中のこの場所、更に測定点はこのポイントでという
ような図面にしていただければ、今の問題は解消できると思います。その際には、方
位も入れていただければと思います。また、空中写真がそこについていれば、なんと
なく上空から見てどれくらい被覆率があるものなのかというのもわかるかと思いま
す。

- ・先ほどの再開発の話のところ、多分この選ばれたエリアは再開発のエリアではある
のですが、その周囲もほとんどこの期間に建て替えされています。総合設計などもあ
り、街全体がこの15年ぐらいかけて変わったエリアですので、この年次ごとの図面
に、建物の配置の図面を入れていただかないと、皆さんに伝わらないのかなと思いま
した。

◆印出井委員

- ・今の関係についてですが、私もこの調査についての議論で当然関わっているところな
のですが、当初は再開発の当該街区を基軸にして、おっしゃる通り、その開発によ
って、そのエリアの緑の状況だとか、価値が上がる、そうすると周辺で総合設計が起
こったり、あるいは個別建て替えについても、そこの連続性が意識されるといった、
そういうスケール感については、今日ご議論いただいた結果を踏まえて、再開発周辺
ということでは何か深堀して検討できるのであれば検討していきたいと思いま
す。

◆三坂部会長

- ・この再開発の部分と、あとちょっと戻りますけど資料3「6.」で対策の検証された
ときに表面温度ははっきり出ているのですが、気温にまで影響しているのかなって興
味があり、何か気温に効果が表れているかどうかの分析ができるとありがたいと思
いましたので、少し御検討いただければと思います。

◇事務局

- ・ご指摘にお応えできるか、検討いたします。

◆山口委員

- ・資料3「10.」について、周辺地域とのヒートアイランド現象の比較ということで、
Landsat や ASTER などの画像で検証されておりますけど、やはり夏場は雲が多くて現
実問題としてちょっと難しいですよね。そういった中で、比較的その雲が少ない日と
いうことで選ばれて、例えば図 10-1(2)、図 10-1(3)に令和元年と令和3年の画像を
出していただいたのですが、極小規模な雲がかかってしまったことによって、
Landsat などの地表面温度の低温域が完全に雲で引っ張られてしまっているという
のが明らかです。その結果、対策効果、例えば緑地の効果が表せていないということ

が明らかな部分もあるかと思しますので、使い方は注意が必要かなと思いました。

◇事務局

- ・今回の国土交通省の PLATEAU の関係の方も来られていますので、ぜひその辺で何か意見があればいただきたいと思ひます。

◆三坂部会長

- ・ PLATEAU を使って、わかりやすい対策効果を示されているので、非常にいいかなと思ひます。折角、建物画像が簡単に手に入るのですから、日影マップのようなものをエリア全体で出せると、簡単かつ有効な使い方ができるのかなと思ひました。検討が丸の内仲通りですと、建物の陰が多くなるので少し見づらくなつたのかなと思ひました。ミストの効果が多く出ているのは、建物の日影の影響も受けているのかなという見方もできると思ひますが、場所などを適切に選定して使えば、有効なツールとなるのではないかと期待しております。

◆山口委員

- ・地面から 1.5m の高さの温度分布についてシミュレーションしていただいた結果ですと、ヒートアイランド対策並びにドライ型ミストを設置した結果、それなりに効果が出ているということでした。暑さ指数でみた場合、ヒートアイランド対策の効果がみられないのではないかとということも言われておりますが、私は細かいところまで見ていくと、効果が出ているのではないかと考えています。小さな区画ごとにみれば、対策を実施した効果が出ているとも思ひますので、そういった観点から丁寧に分析をしていただければと思ひました。

◇事務局

- ・ありがとうございます。国土交通省との調整を通じて、できるだけご意見を反映させたいと思ひます。

◆印出井委員

- ・ PLATEAU については、千代田区としても、ユースケースの一つとして活用に取り組んだところがございます。大丸有地域には、精度の高い情報が既にございます。そういった地域に対しては、取るべき対策として挙げられたものの効果は、かなり限られているところがあると考えています。今後は、大丸有地域の中で、機能更新の時期を迎えているいわゆる有楽町エリアや、あるいは、これからかなり大きな空地ができる予定の常盤橋エリアなど、大丸有エリアの次のフェーズの街区再編したケース、例えば大規模空地、あるいは街区道路の構成の見直しのようなところでシミュレーションし

たら、もう少しわかりやすい数字が出たのかなと思っているところですので、今後引き続きどういう形で使えるのか、さらに検討していきたいところであります。

◆三坂部会長

- ・今回折角調査をしたので、調査の再現ということでシミュレーション検証を行う、つまり、調査結果、実測結果と条件を合わせて、どのくらい再現できているかということを押さえておくと、次に使うときに役に立つと思われしますので、それについても検討いただければと思います。

(2) その他

◇事務局

- ・次回は1月下旬頃ないし2月に予定しています。調整後、決定しましたらご連絡いたします。
- ・国土交通省のPLATEAUの利用について、後ほどアンケートを送りますのでご協力お願いいたします。

3 閉 会